NPO法人タブララサ 活動報告書

イベントによって発生する ごみ削減に向けた 実態調査

特定非営利活動法人タブララサ
令和4年度岡山市市民協働推進ニーズ調査事業

Non-Profit Organization TabulaRasa

イベントによって発生する
ごみ削減に向けた実態調査

2023年2月発行
令和4年度岡山市市民協働推進ニーズ調査事業
編集・発行　特定非営利活動法人タブララサ
事業協働課　岡山市環境事業課

ホームページ：https://nporasa.org/
お問い合わせ：info@nporasa.org

この印刷は再生紙を使用しています。

はじめに

たくさんの楽しいイベントがこのまちで暮らす私たちの生活を彩ってくれています。マルシェ、音楽イベント、アートにスポーツ…町内会単位から数千人が集まる大規模なものまで。ちょっと非日常で、たくさんの笑顔が集まる空間。さまざまなイベントにおいて切っても切り離せないのが、ごみの問題。美味しいフードが盛り付けられていた容器、ドリンクが注がれていたカップやボトル、運営のために必要だった段ボールの空箱…それらの環境負荷まで考えるのは、運営上どうしても優先順位が低くなってしまうことでしょう。

私たちタブララサも2004年の法人化以前から、いくつかのイベントを主催してきました。と同時に「そこで排出されるごみがなくなったらいいのに…」との思いから、イベントでのごみを出さないような取り組みを進める**EC[H]O-SMAプロジェクト**を続けています。

かねてより思っていました。岡山で開催されているいろんなイベントから、ごみがもっと減ったらいいのに。もう少し環境に目を向けることができたら、もっとごみは減らせるのに。ワンウェイ容器が活躍する場面が増えたことも理解できるのですが、環境のことを考えるのが置き去りになってしまっていないのかな、と。
その一方で、イベントを運営する主催者側の大変さも分かります。ごみ問題の解決に向かうのであれば一緒にサポートをしたいけれど、負担が大きくなりすぎては続けられません。まずはその現状を知りたいなと思いました。

岡山市がワンウェイプラスチックごみの削減を目指す具体的な方策を検討していたこともあり、岡山市環境事業課と協働での調査に至りました。この報告書では、主に岡山市内で開催された51件のイベントにおけるごみの取り扱いに関する状況を、岡山市市民協働推進ニーズ調査事業の制度により調査した結果をまとめています。今回の調査がきっかけとなり、岡山のさまざまなイベントからごみが減る取り組みをみなさんと一緒に進められれば幸いです。

2023年2月
NPO法人タブララサ
理事長 利根弥生

今回の調査について

今回の調査は令和4年度岡山市市民協働推進ニーズ調査事業の制度により、岡山市に拠点をおくNPO法人タブララサの提案で実施しました。協働課は岡山市環境局環境事業課、また事業の伴走支援はESD・市民協働推進センターが入り、3者で調査を進めました。

NPO法人 タブララサ

2004年から続けてきた、イベントからごみを減らす取り組みEC[H]O-SMAプロジェクトの経験を活かしつつ、これからのイベント現場でのごみ問題の解決に向けてより深い検討をするためニーズ調査事業の実施を提案。それぞれのイベントにあった方策を見つけ、主催者とともに取り組みながら環境改善を目指すため現場の声を拾い、課題を把握することが今回の調査の主な目的。ごみの問題を通して環境に目を向けることで、イベントの魅力や価値の向上を目指している。

岡山市

令和4年3月に「岡山市海洋プラスチックごみ対策アクションプラン」を策定し、「資源循環」「海洋流出対策」「連携協働」を基本方針として海ごみ問題への取り組みを展開。また、地球温暖化問題への取り組みも強化しており、3Rの徹底によるプラスチックごみの削減を推進している。しかしながらプラスチックは利便性や経済性に優れ、私たちの生活に欠かせない存在でもあるため、プラスチックを否定するのではなく、ワンウェイプラスチックの削減と適正分別によるリサイクルの推進をテーマに課題解決を目指している。

イベントごみの処理について

廃棄物は家庭系ごみと事業系ごみに区分されており、イベントなどにおいて排出されるごみは、事業系ごみとして適正に処理されなければなりません。その処理については、行政の許可を得た収集運搬及び処理業者に委託をする必要があり、これらは「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」により定められています。

調査概要

調査目的

イベントで使用される、主にワンウェイ（使い捨て）容器のごみについて、排出量や処分方法などの課題を把握することを目的に実施。

調査概要

調査対象

主に岡山市内の、NPO、民間事業者、町内会等の自治組織あるいは市主催のイベント

実施期間

2022年9月22日～2023年1月23日

調査方法

郵送、メール、イベント主催者ホームページやSNSにて調査用紙を送付。Googleフォーム、メール、FAXにて回答を収集。

回答数 51件（送付数167件）

※内2事業者（6件）は、詳細を把握するため、オンラインによる聞き取りを行った。

調査内容

1. 環境にやさしいイベントの実現について ―― P05
（1）イベント主催者の環境への配慮に対する関心 P05
（2）環境に配慮した工夫の有無とその実態 P06

2. イベントの詳細・ごみに関する概要 ―― P09
（1）イベントで出たごみの処理方法 P09
（2）イベントの規模とごみ処理にかかる費用 P10
（3）イベントで出たごみの分別方法 P13

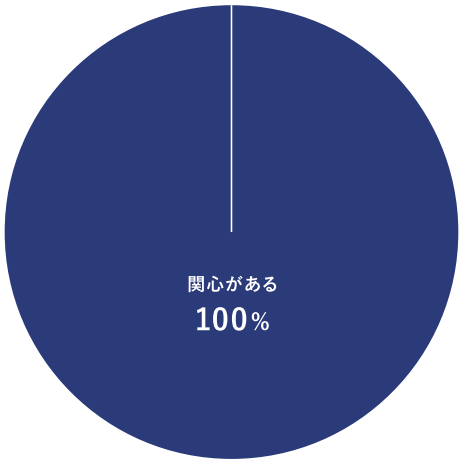
3. イベントごみに関する意見・要望 ―― P14

1. 環境にやさしいイベントの実現について

(1)イベント主催者の環境への配慮に対する関心

「ごみの発生が少ない、環境にやさしいイベントの実現に関心はありますか?」という問いに対してすべての回答者が関心が「ある」と回答しました。

ごみの発生が少ない、環境にやさしいイベントの実現に関心がありますか?



タブララサの考察

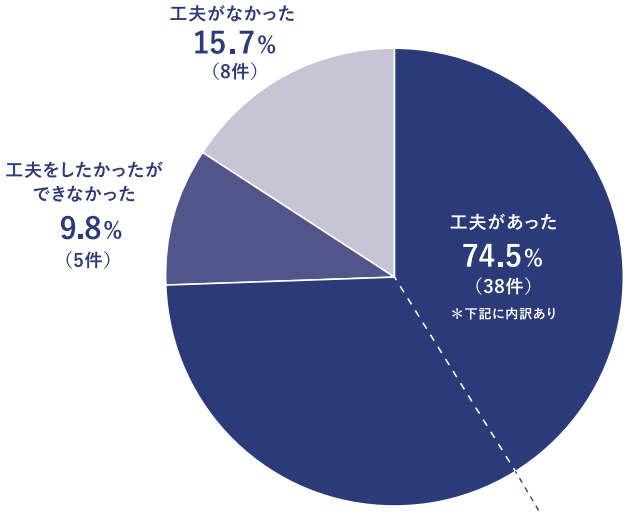
今回の調査では冒頭にこの質問を設定しました。さまざまな経緯や優先度の違いが含まれる回答である前提を踏まえても、イベントを主催する方々にとって、「ごみの発生」「イベントでの環境配慮」は共通の課題認識であることが分かります。

この質問では環境にやさしいイベントを“実現できているかどうか”については尋ねていないものの、“実現したい”という考えがうかがい知れます。限られた範囲での調査でしたが、全回答者からこのような回答があったことは、今後、環境への配慮を目的とした、イベントで排出されるごみ削減の推進に重要な意味を持つものと考えます。

(2)環境に配慮した工夫の有無とその実態

「今回のイベント(企画から運営まで)を通して、環境に配慮した工夫がありましたか? 」という問いに対して工夫が「あった」が74.5%、「工夫をしたかったができなかった」が9.8%、「なかった」が15.7%でした。

今回のイベント(企画から運営まで)を通して、環境に配慮した工夫がありましたか?



(＊内訳)

「工夫があった」のうち、ごみの量や素材への配慮がなされたイベント	20件
「工夫があった」のうち、ごみの分別など基本となる取り組みを回答したイベント	18件

回答の詳細は次ページに続きます

前項の問いに対する具体的な回答内容

●「工夫があった」と答えた回答者の内容

「工夫があった」のうち、ごみの量や素材へ配慮がなされたイベント（20件）

●食品容器ごみへの配慮：削減

・使い捨ての容器は使用せず、食器類やビンを使用している（5件）
・マイ容器の持参を案内

●食品容器ごみへの配慮：素材の代替

・一部の店舗で環境に配慮した素材（バガス素材など）の容器を使用
・参加者へ配布するお茶は、缶のものを選択

●食品容器以外の内容

・参加者に応じて（食事を）必要量を作り、余った場合は冷凍保存か持ち帰り
・展示した花をイベント終了後、抽選により来場者へプレゼント
・使い捨てをしない
・ごみの回収場所にスタッフを配置し適正な分別を呼びかけ
・ごみは持ち帰りとし、ごみ箱等の設置はしなかった（※P17個別の事例②に関連）
・配布資料はできるだけ両面印刷

「工夫があった」のうち、ごみの分別など基本となる取り組みを回答したイベント（18件）

・ごみ箱やごみステーションを設置
・ごみの分別（缶などは資源化物回収へ）
同様の回答が14件

●運営上の対応

・翌日は会場内の清掃

●「工夫をしたかったができなかった」と答えた回答者の内容

・工夫の仕方が分からない（2件）
・イベントの企画運営における優先順位が低かった
・多くの方が参加するため、徹底することができない
・各店舗の対応まで手が回らなかった

●工夫が「なかった」と答えた回答者の内容

・工夫の仕方が分からない
・費用等の負担が大きい
・イベント企画運営における優先順位が低かったため（2件）
・特に大量のごみが発生する予定はなかった（2件）

タブララサの考察

環境に配慮した工夫が「あった」とする回答が多く、その内容にもさまざまな取り組みが見られたことから、各イベント主催者が環境配慮を考え、実践しようとしていることが想定されます。また、「環境に配慮した」という広義の問いに対して、ごみの排出に関する取り組み事例の報告が多かったことからは、「イベント現場における環境問題＝ごみの排出に関するもの」という意識の強さを読み取ることができます。

工夫が「あった」と回答したイベントでは、「ごみの量や素材に配慮する」観点に立った内容が見受けられ、環境に負荷をかけてしまうイベントごみの削減に効果を出しているのではないかと感じました。これらのケースは「ワンウェイ容器を使用しない」ことに意識を向けたものが中心で、他にも「環境に配慮した素材の食品容器を選択する」ケースもありました。また、展示した花を抽選で参加者にプレゼントするなど、単にごみを減らすのではなく参加者の満足度を高める取り組みもあり、ごみの削減とイベントの付加価値向上を両立している点が素晴らしいと感じました。一方で、工夫が「あった」との回答の中には「分別をしている」という趣旨の回答が14件含まれていました。ごみの分別回収はイベント運営の基本であり、重要なのは「いかに適正な分別回収ができるか」ではないかと考えます。

ごみの回収場所にスタッフを配置することは、適正な分別回収の実現に効果的と言われています。今回の調査でも取り組み内容として報告がありました。来場者の多いイベントで100％適正なごみの分別回収をすることはとても難しいですが、ごみ処理の現場としてはそれが守られていないとかえってコストの増大につながるという実情があります。イベント会場のごみ回収場所でスタッフが声かけをする場合と回収箱だけを設置する場合では、分別の適正率に大きな差が出ます。多くのイベントでスタッフの声かけ等の工夫ができれば、ごみの問題が大きく改善されることが期待できるので、推奨したい工夫の一つです。

「工夫をしたかったができなかった」や「なかった」の回答からは、人手不足やイベントの準備等に追われて環境配慮への優先度が下がる状況が読み取れました。工夫する手段が分からないという意見については、どんな工夫ができるのか情報収集をする余裕がないという原因も考えられます。また、環境配慮に効果的な取り組みを知っても、採用して実施するには至らない現場の状況が想像されます。

このようにイベントの準備等で人手不足に悩んでいる現場も多く、環境に配慮したイベント運営に関心はあっても、実際には分別回収などの基本的なルールに加えて、声かけ等の工夫がなされたイベントは多くありませんでした。

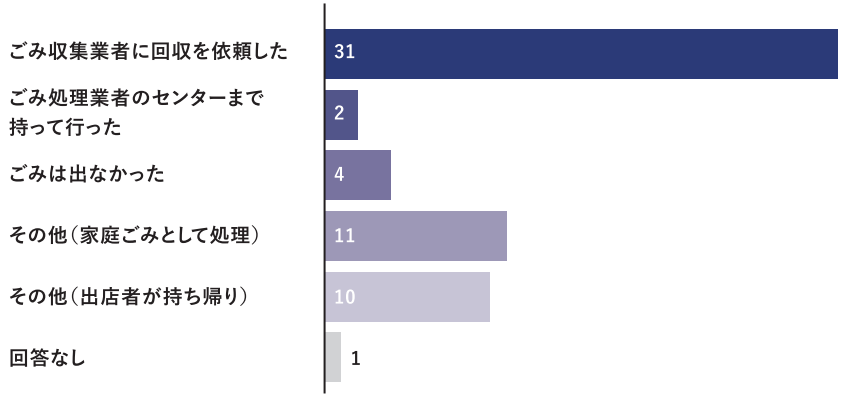
環境に配慮したイベント運営のために取り入れられるさまざまな手法があります。今回の回答にあったワンウェイ容器を使用しないことやごみ回収場所へのスタッフ配置の他にも、事前告知による来場者への周知・啓発やリフィル可能な食品（飲料）の提供などが挙げられます。イベントそれぞれの状況に適した取り組みを過度な負担なく取り入れることが大切であると考えます。

2. イベントの詳細・ごみに関する概要

(1)イベントで出たごみの処理方法

「今回のイベント実施で発生したごみの処理方法を教えてください」という問いに対して
「ごみ収集業者に回収を依頼した」が31件、「ごみ処理業者のセンターまで持っていった」が2件、
「ごみは出なかった」が4件、「その他」の21件のうち、「家庭ごみとして処理」が11件、
「出店者が持ち帰り」が10件でした。

今回のイベント実施で発生したごみの処理方法を教えてください。（複数回答可）



◎選択肢について

ごみ収集業者に回収を依頼した
岡山市が許可する一般廃棄物収集運搬業許可業者に回収を依頼したもの。
事業所でごみ収集業者と契約しており、通常の事業系ごみとして処理したもの。など

ごみ処理業者のセンターへ持っていった
ごみ処理業者の処理施設、または市の焼却場へ持ち込み処理したもの。など

ごみは出なかった
飲食出店がなく、ごみ箱の設置もなかったもの。など

その他（家庭ごみとして処理）
家庭ごみとしてごみステーション等に持ち込んだもの。など

その他（出店者が持ち帰り）
出店者が回収し、持ち帰ったもの。など

結果とタブララサの考察

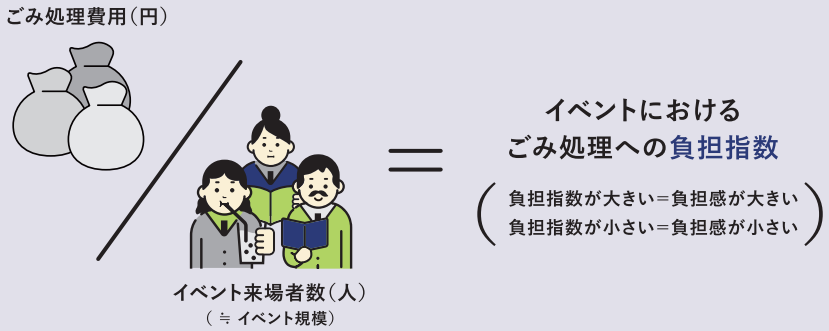
結果
「ごみ収集業者に回収を依頼した」と「ごみ処理業者のセンターまで持っていった」の回答を合わせると33件となり、これらは事業系ごみとして処理されていることが分かりました。
「ごみは出なかった」との回答は4件ありましたが、参加者や出店者が各自持ち帰ったなどによるものと思われ、実際のごみの排出状況について詳しく把握することができませんでした。
「その他（家庭ごみとして処理）」は11件、「その他（出店者が持ち帰り）」は10件ありました。家庭ごみとして処理したイベントは、来場者数が数十人～2000人程度のものが多いようです。また、出店者が持ち帰った後、どのように処理されているかは不明です。

考察
イベント開催に伴って発生するごみは、法律上、事業系ごみとして処理することが求められます。ごみの処理方法については、今後さらに周知していく必要があると感じました。

(2)イベントの規模とごみ処理にかかる費用

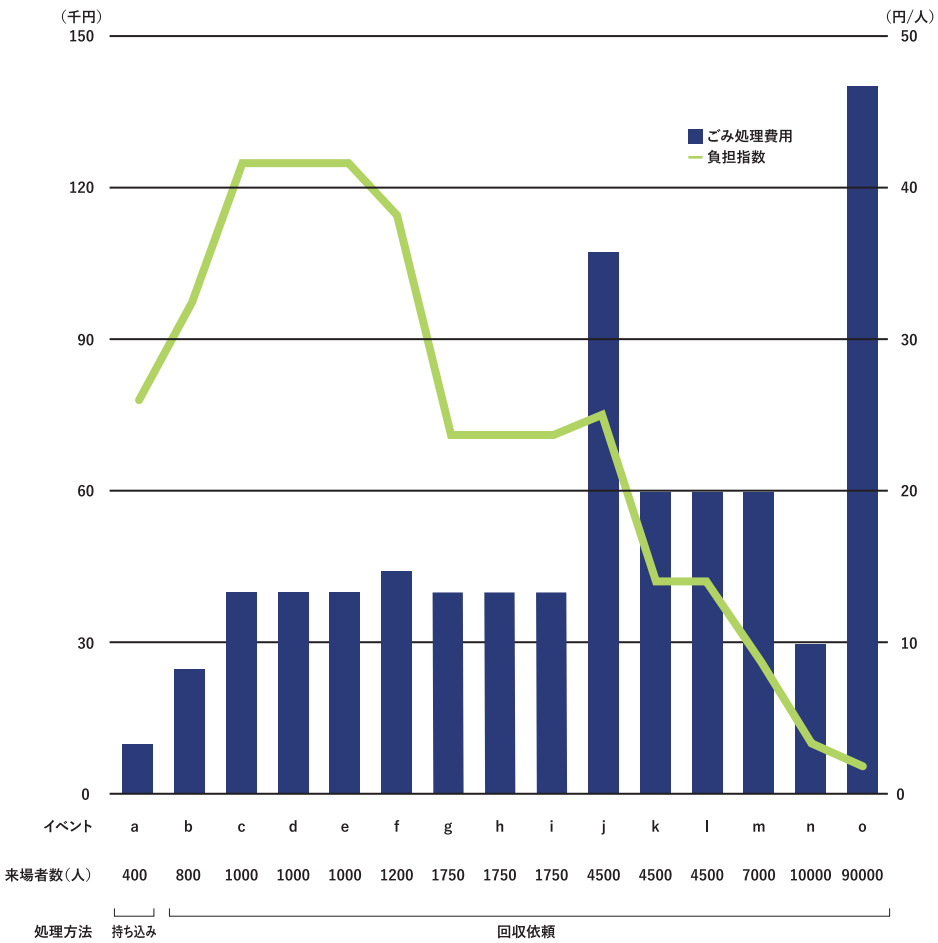
●ごみ処理への負担指数の算出
イベントごみの回収を業者に依頼、またはごみ処理センターへ持ち込んで処理した33件のイベントのうち、事業所でごみ収集業者と契約し、通常の事業系ごみとして回収されたものを除き、
イベントごみに限定した処理費用が算定できる15件について、ごみ処理費用と来場者数の回答から、
イベントにおけるごみ処理への負担指数を算出しました。

負担指数の算出に用いた質問事項	・今回のイベントのおおよその来場者数を教えてください。 ・今回のイベント当日のごみ処理について、かかった費用を教えてください。



負担指数のグラフは次ページに続きます

イベントにおけるごみ処理への負担指数（イベント来場者数とごみ処理費用から）



結果

この分析結果からは、イベント来場者数が少ない（≒イベント規模が小さい）ほど、折れ線グラフで示した負担指数が大きい傾向にあることが分かります。

例えば、イベントcは1000人規模のイベントで、ごみ処理費用は約4万円、指数は40程度です。一方で、イベントgは1750人規模と、イベントcの1.75倍の規模にも関わらず、ごみ処理費用は同じ約4万円なので指数は23程度となっています。4.5倍の規模のイベントkは、ごみ処理費用は約6万円と少し値段が上がりますが、指数にすると13程度です。

負担指数が算出できない場合（事例：家庭ごみとして処理した来場者数の少ないイベント）

家庭ごみとして処理したイベントについては、ごみ収集業者への回収依頼、
またはごみ処理業者のセンターに持ち込むための費用がかかっていないため、
負担指数を明らかにすることができませんでした。
そこで、ごみ処理にかかる費用を試算して負担指数を求めると、以下の表のようになりました。

事例 家庭ごみとして処理した来場者数の少ないイベントの負担指数の試算

実際の数値

来場者数	ごみの総量	ごみ処理方法	ごみ処理にかかった費用	ごみ処理の負担指数
約300人	ゴミ袋約10袋（約30kg）	通常のステーションへ出した	0円	0

▼

試算の数値

ごみ処理方法	ごみ処理にかかる費用	ごみ処理の負担指数
ごみ処理業者のセンターに持ち込み	約5,450円	18

試算の根拠
・事業系一般廃棄物処理手数料（150円/10kg）
・レンタカー6時間利用・燃料費　5,000円
※ごみ運搬時の人件費についてはボランティアでの関わりを想定しているため費用に加算されておらず、負担指数にも反映されていません。

タブララサの考察

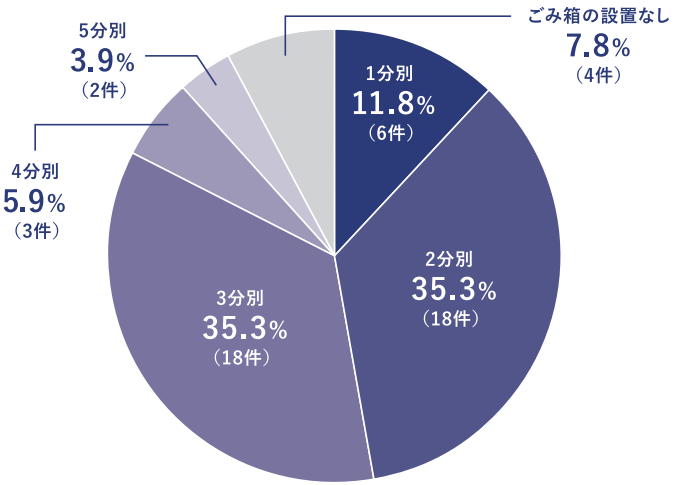
調査結果の分析と上記の試算から、比較的規模の小さいイベントにおけるごみ処理への負担感の大きさが推察されました。通常、イベントの規模が小さければ小さいほどごみの量は減り、比例してごみ処理費用が少額になると推測しますが、今回の調査ではそうではなく、かえって負担が大きくなっている様子がみえてきたと言えます。

これは、ごみ収集業者へ回収を依頼した場合は、ごみの量以外に基本料金が発生すること、持ち込みの場合にも運搬にレンタカーを借りるなどで固定費用が発生することなどによるものと思われます。
家庭ごみとしてイベントごみを処理したイベントは、来場者数が2000人未満と比較的小規模のイベントで多いようです。イベントごみは事業系ごみとして処理することが求められますが、イベント規模が小さいと負担指数が大きくなる状況からは、適正な処理に大きなハードルを感じている様子が想像されます。

結論として、イベントの規模や内容に応じて、その主催者に対してより丁寧な説明と、ごみ処理の負担軽減のための提案が求められることがわかりました。

(3)イベントで出たごみの分別方法

今回のイベント当日の
ごみの分別の種類を教えてください。



◎質問紙で用意した回答用選択肢

- □ 分別なし
- □ 燃えるごみ
- □ 燃えないごみ
- □ プラスチック類
- □ 缶・ビン・ペットボトル(いずれか)
- □ ペットボトルキャップ
- □ 割り箸
- □ 残飯
- □ その他

タブララサの考察

結果

ごみを1～2種類に分別しているイベントが約半数でした。2分別では、「燃えるごみ」と「缶・ビン・ペットボトル(いずれか)」、「燃えるごみ」と「燃えないごみ」の組み合わせがほとんどでした。飲食出店の有無によって分別数の傾向に大きな差はありませんでした。

考察

イベントによって人数規模や排出が見込まれるごみの種類はさまざまであるため、一概に適正な分別数を示すことは難しいですが、飲食を伴うイベントである場合は最低でも、紙やプラスチック類、残飯(一般的な燃やせるごみ)、資源化物3分別(缶・ビン・ペットボトル)を分けて回収することが必要と考えます。

また缶やペットボトルなどの効率的な資源化を目指すには、容器内に飲み残しがないよう呼びかけをしたり、食品容器のスマートな回収(ごみ箱の容量を節約する回収方法)を目指す際には、例えば同じ形の食品容器を重ねるといった、ごみ回収場所で丁寧な工程を経ることが大切になってきます。

3. イベントごみに関する意見・要望

【質問:イベントごみに関する内容でお困りのことや、こんなサポートが受けられたらいいのに、などご意見があれば教えてください。】について、以下は回答によりいただいたご意見・ご要望(抜粋)へ岡山市の現状と今後の展望を紹介します。

●ごみの回収・処理に関して

・土曜日にイベントを開催し、翌日の日曜日に燃えるごみを引き取ってくれる業者がなく、困っている。

・イベント翌日に会場まで一括回収のパッカー車が来てほしい。

適正なごみ処理をしようとしても、イベント主催者に運搬や保管の負担が発生してしまう場合があります。制度上のハードルによって環境配慮への意欲が削がれてしまうケースが多いのではないかと感じており、ごみ収集業者等との事前の調整についてサポートしていく必要があります。

・毎年生ごみの処理について悩んでいる。たい肥化できないか高校に相談したが、保管や輸送方法などで挫折した。

ごみ処理の観点からも、たい肥化はとても意義があります。また事業者向けには、食品廃棄物をメタン化して発電するバイオ発電等の食品リサイクルの取り組みもあるため周知していく必要があります。

・会場のごみ袋の交換サポート

イベント現場では人手が不足していることが想定されます。スタッフの配置計画など情報提供できる内容を検討します。

●ごみへの知識・ガイドラインに関して

・過去にはごみのテントをカラスに荒らされたこともあり、以降は撤収の段取りに留意するようになった。当初はごみから影響があるリスクへの知識がなかった。

・ごみ袋の提供、分別の案内掲示物の提供(割りばしなどの分別意識がなかった)。

・共通のごみ回収のフォーマットやガイドラインがあり、運営側にもルールが共有されているといい。

事業系ごみの処理方法を案内するパンフレットはありますが、イベントでのごみの扱いについて案内する資料はなく、イベント主催者等は、現場で試行錯誤をしながら各々の基準で取り組んでいることが考えられます。負担が少なく、分かりやすく適正な処理方法を周知する必要があると思います。

出店者独自の環境配慮とごみの回収品目

●イベント概要

来場者規模 約1,500人 / 飲食出店数 11～30店舗

●イベントの様子

岡山市中心部の会場で実施されたイベント。食に焦点を当てた企画ということもあり多くの来場者で賑わっていました。出店者も幅広く、イベントで頻繁に出店をしている方もいれば、普段は店舗での営業を主とし、野外出店のために特別に準備をされている方もそれぞれです。

約20軒の出店の中で、1軒だけリユース食器を利用しているお店がありました。「普段から出店する時は自前のリユース食器を用意している。SDGsの風潮を知り、取り入れてみようと思った。」とのことでした※。

会場内に3ヶ所設置されたごみ回収スポットには、燃えるごみ・ペットボトル・残飯の3種類の分別がありました。ペットボトルの回収箱の中には、ワンウェイプラスチックの食品容器が捨てられていました。また、缶ビールを販売しているお店もありましたが、缶の回収場所はありませんでした。

回収したごみの集積場所は、会場裏側にある四方を囲った運動会テントでした。イベントが終わる頃にはテントがごみ袋でいっぱいになるそうです。

※リユース食器は回収済みのものを持ち帰って洗浄しており、同日のイベントで繰り返し使用されることはありません。

タブララサの考察

独自のリユース食器を導入されているお店の方は、「食べ終わったらこちらに返却を」と一人ひとりに声かけされており、回収箱の表示も分かりやすかったです。こうした丁寧なやり取りがあってこそ、来場者も迷わずにリユース食器を利用することができます。環境について、来場者について、しっかりと考えられている取組みだと感じました。

ごみの分別回収には正しい理解と取り組みが必要です。適正に回収すると資源として有効活用できますが、このイベントでも見受けられたように、別のものが混入してしまうと収集の際にコストが増大することがあります。分別のためにスタッフを配置することで、こうした事態を防ぐことができます。また提供される商品とごみの分別基準が合致していないこともイベント会場では起こりがちです。出店者と主催者の事前の情報共有を丁寧にすることが大切になってきます。

イベントの景観を重視し、山になったごみ袋の存在が隠されていることは多いです。今回のイベントでも、テントがごみの集積場所だとは気づいていない方がすぐ近くで飲食をしていました。ごみの存在を視覚的に断絶することで、ワンウェイの食品容器がごみになっていることに気づく機会も奪われている状況があると、この集積場所（テント）を見て感じました。

出店者がごみを回収

●イベント概要

来場者規模 約1,000人 / 飲食出店数　31～50店舗

●イベントの様子

　このイベントは、さまざまな種類の出店がある野外マーケットです。会場にごみ箱は設置せず、食べ終わった後の容器は各出店者がお客さんから直接回収しているとのことでした。ただし出店者が持ち帰った後のごみの処分方法までは出店の際に指定はしていないとのことでした。

　飲食後のごみの回収については、出店者から来場者へ「食べ終えた後のごみは店舗に戻してくださいね」という声かけがあることで、回収に混乱は生じていませんでした。また、来場者がごみを店舗に持って行った際には、「ごちそうさま」「ありがとうございました」というやり取りが生まれていました。

タブララサの考察

　会場にごみ箱を設置しないことは、イベントにおけるごみ削減の手法としてポピュラーになりつつあります。景観上の問題の軽減、イベント外から持ち込まれるごみの抑制、イベントに伴う食品容器ごみの処分は販売した出店者が負担すべき、などの観点から実施されていることが多いようです。
出店者が容器を回収し、出店者自身がその量を目にすることで、ごみに対する課題意識が芽生え、見た目や導入コストだけで食品容器を選ぶことも減ってくるかもしれません。ただし、出店者が回収したごみの処分方法について主催者が把握していないことも分かり、回収した後の適正な処分についての周知の必要性も感じました。

　ごみ箱を会場内に設置しないという工夫は、出店者と来場者との対話が成立している上で効果をなすものであると考えます。
このイベントでは、主催者から出店者へごみ箱を設置しない意図や目的、来場者への声かけなど重要なポイントを共有していることで、ごみの回収がスムーズに行われていました。来場者にとっては、出店者とコミュニケーションをとることや気持ちの良い運営の様子に触れることで、そのイベントへの好感度上昇にもつながっていると推測します。
ごみを通してイベントの価値向上を目指せる一例であると感じました。

質問紙について 今回の調査で使用した質問紙の内容です。

Q1 ごみの発生量が少ない、環境に優しいイベントの実現に関心はありますか？

☐ ある　☐ ない

Q2 今回のイベント(企画から運営まで)を通して、環境に配慮した工夫がありましたか？

☐ あった　☐ 工夫したかったができなかった　☐ なかった

Q2-1「あった」と回答された方はその内容を教えてください。

〔　　〕

Q2-2「工夫したかったができなかった」「なかった」と回答した方はその理由を教えてください。

☐ 費用等の負担が大きい　☐ 工夫の仕方がわからない

☐ 環境配慮する必要性を感じない

☐ その他（　　）

Q3 今回のイベントのおおよその来場者数を教えてください。

〔　　〕

Q4 今回のイベントでの飲食出店者数を教えてください。

☐ 1~10　☐ 11~30　☐ 31~50　☐ 51 以上

☐ 飲食出店はなかった

Q5 今回のイベント当日のごみの総量を教えてください。(例；ごみ袋約〇個 / 軽トラック〇台分 など)

〔　　〕

Q6 今回のイベントで発生したごみの処理方法を教えてください。

☐ ごみ収集業者に回収を依頼した

☐ ごみ処理業者のセンターまで持っていった

☐ ごみは出なかった

☐ その他（　　）

Q7 今回のイベント当日のごみ処理について、かかった費用を教えてください。

(例：約〇〇万円、ごみ処理費用の他に運搬費用なども発生した場合は併せてご記入ください)

〔　　〕

Q8 今回のイベント当日のごみの分別の種類を教えてください。

☐ 分別なし　☐ 燃えるごみ　☐ 燃えないごみ　☐ プラスチック類

☐ 缶・ビン・ペットボトル　☐ ペットボトルキャップ

☐ 割り箸　☐ 残飯　☐ その他（　　）

Q9 飲食販売以外でイベント当日に発生したごみの内容を教えてください。

（例：パンフレット、仕入れ時の段ボール、看板、メニュー等）

〔　　〕

Q10 来年度以降も同様のイベントを実施予定ですか？

☐ 実施予定・今年度の同時期に実施したい　☐ 実施予定・時期未定

☐ 別の形で企画しているものがある　☐ 実施予定はない

Q11 イベントごみに関する内容でお困りのことや、こんなサポートが受けられたらいいのに、などご意見があれば教えてください。

〔　　〕

こんなことでお困りではありませんか？

ごみの処理にかかる費用を抑えたい

ごみの量を減らしたい

分別がわからない

イベントを通して環境配慮の取り組みがしたい

リユース食器の導入、エコステーションの運営など、
イベントの規模や内容によって適した方法を検討し
一つひとつのイベントの特色に合うサポートができるようにイベント主催者と協議の上、メニューを提供します。
環境に配慮したイベントを実現したい、その素敵な想いを挑戦する前に諦めてほしくない。
小さな取り組みからで大丈夫です。タブララサがみなさまに寄り添えたらと思います。

お問い合わせはこちらまで

NPO法人タブララサ
【MAIL】info@nporasa.org　【HP】https://nporasa.org/

まず、今回のニーズ調査事業に際してアンケートにご協力いただいた皆様へ感謝申し上げます。アンケートの内容はごみに特化したものではありましたが、それぞれの主催者様が熱心にイベント運営をされていること、たくさんの時間と労力をかけて取り組まれていることが伝わってくる内容でした。それらの声を読ませていただく中で、イベントの実施とごみの問題はやはり切っても切り離せないものだなと再認識をした次第です。

ごみがたくさん出て環境に負荷をかけてしまうからと、イベントを実施することが悪いことのように言われることもあります。タブララサとしてはそれはとても悲しいことであり、楽しいイベントはぜひとも継続してほしい。大切なのは、環境に配慮した工夫をイベントに取り入れることによって、主催者も参加者も満足感を得られること。たくさん出てしまったごみを処分することに労力や費用を割くより、ごみの削減に向き合って効果を得る、そんなシフトチェンジがこれからの時代には求められます。私たちとしては指摘・指導するのではなく、それぞれに似合った無理ない取り組みを一緒に検討していく、その最初の一歩として今回の調査結果を活用できたらと捉えています。

ぜひ一緒に、イベントを通した環境配慮について考えてみませんか？そんなことがスタンダードになる日を描きながら、私たちもみなさんと同じく、このまちでおもしろいことを展開していきたいです。

岡山のまちで、色とりどりな楽しいイベントが続きますように。

おわりに

2023年2月
NPO法人タブララサ
理事長 利根弥生